

医科研病院だより



第29号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
平成27年10月15日
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.transrec.jp/>

CONTENTS

「血液腫瘍内科」の紹介……………	1
すこやか・カフェ……………	2
特別企画……………	3
なんでも・ひろば……………	4

「血液腫瘍内科」の紹介

血液腫瘍内科 東條 有伸

血液腫瘍内科で診療している病気の大部分は「血液がん」とも呼ばれる造血器腫瘍です。難病に指定されている再生不良性貧血や特発性血小板減少性紫斑病など良性的な病気は、当科で診療している病気のごく一部にすぎません。なお、造血器腫瘍の中には白血病や悪性リンパ腫など有名な病気だけでなく、骨髄異形成症候群・骨髄増殖性腫瘍・多発性骨髄腫などあまり馴染みのない病気も含まれています。また、血液内科で診療する病気の多くは学問的な見地から細かく分類され難解な病名がつけられていますので、患者さんや他の診療科のスタッフに対してはなるべくわかりやすい用語で説明するようにしています。

医科研病院の特徴の一つは、各診療科が難治性の病気や稀な病気を重点的に診療するプロジェクト診療を行っていることです。血液腫瘍内科では、「成人白血病を主な対象とする非血縁者間臍帯血移植（uCBT）」と「化学療法・抗体療法・細胞移植の組合せによる成人T細胞性白血病（ATL）の治療」を主なプロジェクトとしてきました。いずれも実績を積み上げ、それぞれの領域における我が国中核機関として評価されています。近年、ランゲルハンス細胞組織球症（LCH）という極めて稀な病気の診断と治療法の確立を新たなプロジェクトに加えまし(ノ)

(ノ)た。現在、成人例では国内唯一の診療機関であるため、先行している2つのプロジェクト同様に全国から症例を受け入れています。

血液の病気に対する新しい治療法が過去十年以上にわたって次々に開発されてきました。慢性骨髄性白血病に対するイマチニブ（分子標的薬）やB細胞性悪性リンパ腫に対するリツキシマブ（抗体医薬）は登場後まもなく標準治療に組み入れられて治療成績を向上させ、患者さんの予後の改善に貢献してきました。これらの例に限らず、血液の病気の多くは治療の進歩によって予後が大きく改善しています。それでもなお、私どもが受け入れる患者さんの多くは、その時々で最も治療が難しい症例であることに変わりありません。幸い、今後も「キメラ抗原受容体遺伝子を導入したT細胞（CAR-T）による再発・難治性B細胞腫瘍の治療」や「臍帯由来間葉系細胞を用いた薬剤抵抗性移植片対宿主病（GVHD）の治療」などの臨床試験、さらに「ゲノム情報を病気の診断や治療方針の決定に応用するゲノム医療」など画期的なプロジェクトが出番を待っており、私どもは常にチャレンジ精神をもって患者さんと共に病気と闘っていきます。



トピックス

- ◆ 9月8日に病院防災訓練が行われました。
白金台は地盤が強固ということになっていますが、1号館の中央と西側部分が年末で耐震工事が行われます。
工事中は、ご不便をおかけしますが、具体的な案内は別途改めてありますのでご留意願います。(ノ)

- (ノ)首都直下型地震の危険性が言われていますが、災害発生に備え少しでも被害を軽減できるべく実施しております。
防災訓練の際には、ご迷惑をおかけする場合がありますがご理解のほどよろしくお願いいたします。



すこやか・カフェ



C型肝炎はとうとう飲み薬だけで治る時代に

先端診療部消化器内科 肝臓指導医・専門医 加藤 直也

C型肝炎と聞いて自分とは関係ないと思われる方も多いと思います。原因であるC型肝炎ウイルスは日本では約200万人が感染していますが、約80万人は自分が感染していることを知らないと言われています。一度は血液検査を受けて頂きたいと思います。

C型肝炎ウイルスは血液を介してうつります。以前は輸血が一番の原因でしたが、ウイルス検査をするようになり、輸血でうつる人はほとんどいなくなりました。それでも、今でも入れ墨、カミソリなど血液が付着するものの共用、覚醒剤の回し打ちなどでうつる可能性があります。ピアスの穴開けでうつったという報告もあります。気付かないうちにうつっている可能性があるのです。

ではC型肝炎とはどういう病気でしょうか？ひとことで言えば、肝硬変、肝がんのわが国最大の原因なのです。毎年3万人以上の方が肝がんによって亡くなりますが、その3分の2はC型肝炎が原因です。C型肝炎と言っても、よほど進んだ肝硬変でなければ、自覚症状はほとんどありません。肝臓は昔から言われているとおり沈黙の臓器なのです。将来、命を脅かす肝硬変や肝がんになる恐ろしい病気なのですが、痛くも痒くもないので、検査や治療を怠りがちになります。



C型肝炎の治療は長らくインターフェロンという副作用の多い注射薬を中心に行われてきました。熱も出ますし、体は痛く、そしてだるくなり、食欲はなくなり、気分的にもうつになり、髪の毛も抜けやすくなるというお薬でした。しかも毎週の注射を少なくとも半年間も続けなくてはならないのです。それでも多くの方がこの薬のお陰で助かり、そして、C型肝炎が治っているのですが、患者さんにとって決して楽な治療でなかったことは確かです。それでもインターフェロンはがんが出来るのを抑える働きが証明されており、今でもC型肝炎治療に使われています。

理想的なC型肝炎の治療薬とはどのようなものでしょうか？いくつか条件を考えてみました。①飲み薬であること、②副作用が少ないこと、③治る率が100%に近いこと、(マ)

(マ)④短期間の治療で済むこと、⑤薬の効かないウイルス(薬剤耐性ウイルスと言います)がほとんど出ないこと、⑥値段が安いこと、⑦飲む回数が少なく、飲む錠剤の数が少ないこと、⑧肝がんを抑える働きがあること、などでしょうか？そんな都合の良い薬はあるはずがない、というのが今まででしたが、とうとうそのようなC型肝炎治療薬が登場したのです。

そのお薬はソホスブビルという薬とレジパスビルという薬を合わせて1つの錠剤にした商品名でハーボニー錠という薬です。1日に1回、たった1錠を12週間服用することで、何と臨床試験では本治療を受けた肝硬変を含む患者さんの全員からC型肝炎ウイルスが消えてしまったのです。重大な副作用も認められませんでした。これは劇的なことです。C型肝炎が見つかって26年、ようやくここまで来たかというのが長年C型肝炎の診療を続けてきたものにとっての正直な気持ちです。

それでも正確には1点だけ理想の条件を満たしていません。何と、このお薬、1錠が8万円強もするのです。1日1回1錠を12週間すなわち84日間服用するわけですから、お薬代は何と約670万円也。3割負担だと…、簡単には払えない金額ですね。ところが、ありがたいことに日本には肝炎治療の助成制度があります。それを申し込むことにより、月に1万円か2万円の負担で治療を受けることが出来ます。

気をつけなければいけないこともあります。それはこの治療によりC型肝炎ウイルスが体から完全にいなくなっても、硬くなった肝臓は急には柔らかくならないということです。肝臓が硬いほど、肝がんが出来やすいのです。したがって、C型肝炎が治っても、肝がんになる可能性は残っており、引き続き経過を診させて頂く必要があります。

長年、C型肝炎による肝硬変や肝がんによって苦しむ、命を落とす患者さんをたくさん診てきたものとしては、とうとう長年待ち望んでいたC型肝炎で悩める患者さんを救う画期的な治療が登場した、というのが正直な思いです。C型肝炎で死ぬのはもったいないという時代になるでしょう。

このような素晴らしい治療が登場しても、それを知らなかったために命を落とす患者さんをなくしたい。このような機会を通じて救える命が増えれば、それはわれわれにとって最高に嬉しいことです。



特別企画：SASUKEベトナム国際試合に出場して

関節外科 久保田 実 (その2・最終回)

～前号より：鋼鉄製の競技タワー、SASUKEベトナム版。
日本の体力自慢達が挑戦したその結末は～

……何台ものテレビカメラ、音声マイク、眩い照明のライト、大勢の観客の声援、力強いナレーション、そして躍動感のあるSASUKE独特のバック音楽、そのすべてがステージに立つ私一人に向けられていると思うと気分は高揚し、まるで物語の主人公のような気分になりました。しかしこの後、思わぬ障壁がいくつも待ち受けていたのです。

1つ目の障壁は、「言語」でした。ベトナム語で進行する為、スタート台に立ってから司会の話がわからず、気持ちを切替えるタイミングが図れませんでした。緊張したままスタートし、余計な力が入り、最初のロングジャンプ(4m50cm)で、ギリギリの着地になってしまいました。しかし、無事だったことで気を取り直し、次の種目、ロックグリップからは普段通りに戻ることができたので、1stステージをクリアできました。



挑戦した仲間たちと



いざ挑戦！

1stステージ終了から2ndステージ開始まで約3時間の間があり、ここで2つ目の障壁、「時差」にぶつかりました。ベトナムと日本の時差は2時間でしたが、規則正しい生活をおくっている私には、移動の疲労と慣れない環境のストレスも合わさって、普段は熟睡している時間帯の収録は、強烈な睡魔との戦いになりました。選手の控室で寝てしまいたい衝動に駆られましたが、過去の大会で、収録の合間に眠った人達が、目が覚めても身体はなかなか目覚めずに失敗してきたのを目にしていましたので、ストレッチやウォーキングをして、眠らないように必死に耐えました。

いざ収録本番が始まり2ndステージのスタート台に立ち、再びカメラやライト、声援、音楽などにより、アドレナリンが体中に巡り、疲労感も眠気も全く感じなくなる魔法にかかりました。スタートしてから、難関を次々にクリアし、最後の種目、「反り立つ壁」まで順調に行きました。しかし、最後にアドレナリンの魔法が切れ、疲労が襲いかかります。

息も上がっておらず、余力もあると感じているのに、片手の人差し指と中指の第2関節さえ引っかければクリアできる、失敗することのなかった「反り立つ壁」を前に、急に力が入らなくなり、壁の天辺に届きませんでした。悔しさのあまり泣きそうになり、その場にうずくまりたかった(〆)

(〳)ですが、すぐにインタビューの為、ステージから降りなければなりません。そのときに、完全にふくらはぎと太ももの筋肉が、つっていることに気が付きました。

原因は、3つ目の障壁、「気候」でした。東京の気温が18℃、湿度が40%でしたが、ホーチミンでは気温37℃、湿度90%という猛烈な暑さと湿気でした。このため、大量に発汗し体内のイオンバランスが崩れてしまい、現地に着してからスポーツドリンクやミネラルウォーターで水分を十分に補給しているつもりでしたが、変化に身体がついていかなかったのです。



上：鋼鉄の魔城SASUKE
下：3rdステージ終わって思わず笑顔が



2ndステージ緊張の面持ち

2ndステージが終わりましたが、ベトナムチームも失敗した為、試合は3rdステージに持ち越しとなりました。

2ndがクリアできなかったのに3rdステージまで体験できたことは、今後のSASUKE人生で貴重な体験になりました。3rdステージは、指の力や握力を中心に上肢全体の力を試されるエリアが多く続くステージです。2ndステージ以上に満身創痍の状態では挑戦しなければならず、たとえクリアしても25mもの高さのロープクライムのファイナルステージが待ち構え、SASUKEは本当に究極のサバイバルアタックなのだ、と実感しました。こうして私の海を越えての挑戦は、なんとか無事に終わったのです。

初のベトナム開催でしたが、ベトナム人代表の5人は300人の中から選ばれた精鋭で、彼らはとてもフレンドリーで、チーム戦での敵とはいえ、ともに鋼鉄の魔城の完全制覇を目指す同志でもあります。彼らとは、成功と失敗を共に分かち合い、健闘を称え合いました。本当に楽しかったです。

現地滞在40時間という強硬日程での収録でしたが、とても内容の濃い2日間でした。TBS、VTVのスタッフさん、現地のコーディネーターさん、通訳さん、応援していただいたベトナムの皆さんの親切と温かい声援にとっても感謝しています。一生の宝物になりました。次は日本のSASUKE本選で頑張ります。応援よろしくお願ひいたします。(終)

なんでも・ひろば



医科研探索



医科研病院は「緑の多い病院」と呼ばれ、患者さん・ご家族の安らぎになっているとも言われています。緑が多いだけではなく見所が実はたくさんあります。今回は、過去の「医科研病院だより」の記事を含め、白金台キャンパスの見所についてご紹介いたします。

地下鉄白金台駅から入ると左手に近代科学記念館があります。天気の良い日はテラスでランチをとられている方も多く、「白金台」の雰囲気がこの辺までしています。中に入りますと、数は多くはないものの興味深い展示物に恵まれています。「医科研病院だより」第5号、8号、13号を病院ホーム・ページからご覧になってから訪れていただくことをお勧めします。野口英世、北里柴三郎の展示物の背景がおわかりいただけるかと思ひます。このあたりから桜の木が多く植わっています。第7号で見所を紹介していますが1ヶ月くらい各種の桜を楽しむことができます。1号館の前を右手に行きますと敷地境界のあたりに小さな祠があります。木に隠れており職員でも存在を知らない者が多く夕暮れ時に行きますと、都心とは思えぬ冷やとした雰囲気に浸れるかもしれません。左手に折れ、もう少し行った聖心女子学院との間の道路の近くには第27号で紹介された大きなツバキがあります。建物に隠れ敷地からはわかりにくいですが、春には道路から花を楽しむことができます。裏門の近くには職員向けの保育園があります。天気の良い日は病院の周りで子供達がお散歩を楽しんでいます。(ノ)

(ノ)1号館の前を逆に左手に行くと生協がありますが、少々行き過ぎて左手を見ますと何か奉ってあるものがあります。動物慰霊碑で、実験用に供された動物の霊を慰めており毎年慰霊祭が行われています。この先の2号館前の駐車場にはお昼時は屋台村が出ています。天気が良いと屋台村で買ったランチをその後ろの木陰で楽しむことができます。

このように白金台キャンパスは多くの見所があります。この他にも病院の行き帰りに気を付けていただくとお思い掛けない発見を楽しむことができるかと思ひます。(野生のハクビシンがテニスコートのフェンスの上を歩いているところを見たこともあります)

(by プラタモリ好き広報委員 第18号に続く 2回目)



◆病院からのお知らせ◆

●臨床検体の取扱いにつきまして

当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は

http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/ore/IMSUT_ORE_7.html をご覧ください。

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

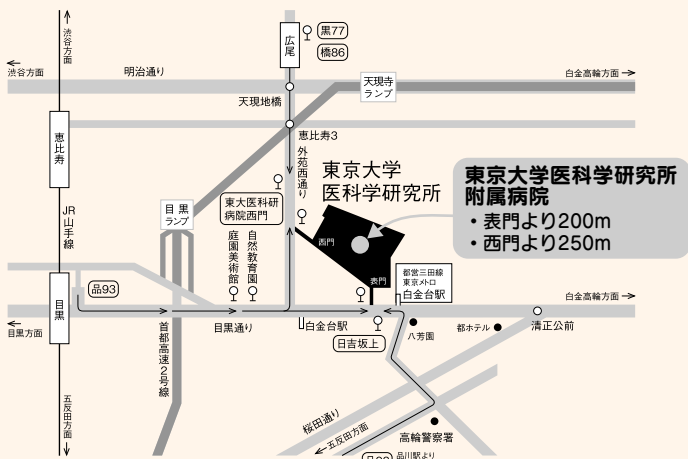
診療科

内科 (総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、代謝・内分泌、循環器、消化器)

小児科 (小児細胞移植)

外科 (一般、腫瘍、消化器、乳腺)、整形外科 (関節)

脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



外来診療日

月曜日～金曜日 (祝日および年末年始を除く)

診療受付時間

8:30～11:30 (初診・再診)

12:30～16:00 (再診のみ)

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

(確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください)

予約専用電話 (予約受付および変更)

診察: 03-5449-5560

検査: 03-5449-5355

受付時間 8:30～17:00 (外来診療日のみ)

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
 - JR山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分(1メートル)
 - JR品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
 - 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車
- ※患者専用駐車スペースも数台分ございます。ご利用は受付にお申し出ください。